



わが家のアイドル

東中にお住まいの

高橋 学さん・寛子さんの

長女 ^め愛唯ちゃん(5歳4か月)

次女 ^ま真唯ちゃん(3歳10か月)

しっかり者の姉めいと

負けず嫌いの妹まいです。

歌とダンスが大好きな私たち。

時々けんかもするけど

とっても仲良しな姉妹です。



下田市はあいさつ運動実践中

『おはよう』の声 こだまする



みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。

下田の大地を巡る旅

「伊豆半島ジオパーク」

Vol.10



下田港ジオサイト

これまでご紹介してきた「ジオパーク」。その意味とは、「大地(ジオ)の育んだ貴重な資産を保全、活用していく取り組み」です。

多くの人がジオパークと聞いて、思い浮かべるのは、竜宮窟や恵比須島など、特徴的な地層や地形を持つ、美しい景観ポイントではないでしょうか？

もちろん、こうした景観は、多くの人を魅了し、観光振興における、とても重要な資産となっています。

しかしながら、「ジオパーク」は、もっと大きな枠組みです。大地とともに歩んできた、地域の歴史や文化、産業、芸術等はすべて、ジオパークの「資産」です。すなわち、資産の「活用」とは、観光の振興に役立てるだけのものではなく、教育や環境保全、文化振興等にも当てはめることができるのです。

「安政東海地震」

私達は大地に根ざして暮らしています。大地と共生していくなかでは、温泉や地下資源等、多くの恩恵を受ける一方で、火山噴火や地震等、災害によってもたらされた悲劇も少なくありません。

幕末に起きた「安政東海地震」は、下田に甚大な被害をもたらしました。ロシア使節プチャーチンが下田を訪れていた嘉永7年11月4日、その地震は発生し、地震後の津波では、町の全戸数875戸の

うち841戸が全壊流出、無事だったのは高台にあった4戸のみで、下田港内には渦潮が発生、停泊していたロシア船・デアアナ号は30分余りで42回転したといわれています。

三丁目・仙寺の本堂には、津波で流された船のぶつかった傷跡が残されており、一丁目・稲田寺と四丁目・本覚寺には、津波で亡くなった方を供養する「津なみ塚」が建てられています。

開港場であった下田は、幕府により急速な復興がすすめられる訳ですが、当時の傷跡は、いろいろなかたちで確認することができます。

東日本大震災では過去の津波の到達地点を指し示す石碑の存在が取り上げられました。世界ジオパークのひとつ「洞爺湖・有珠山ジオサイト」では、有珠山噴火の歴史を、防災教育に役立てています。下田で起きたこの災害を再検証し、防災等に役立てていくことも、ジオパークの推進する、「資産の活用」のひとつといえるのではないのでしょうか。

問合せ先

観光交流課観光戦略係

☎ 23913



「広報しもだ」は再生紙を使用しています



伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>